opusdei.org

黙想:オプス・デイ 創立記念日(10月2 日)

黙想のテーマ:「オプス・デ イは神のお望み」「社会生活 の中の観想者」「神の企画へ の協力」

オプス・デイは神のお望み

社会生活の中の観想者

神の企画への協力

1928年マドリードで、9月30日から 10月6日まで、教区司祭のための黙 想会が行われました。それに26歳の 若き司祭ホセマリア・エスクリバー も参加しました。幾らか自由な日々 を予定できたからです。その間の10 月2日火曜日の朝、ミサ後、この司 祭が、この世にオプス・デイをもた らす神的な使命を与えられるであろ うことは、ただ神だけがご存知でし た。聖ホセマリアは、数年前からの メモの幾つかを見直して、オプス・ デイにおける多くの息子たちと娘た ちの父になるように呼ばれているこ とを初めて理解します。この子ども たちには、皆、自分の仕事場に福音 をもたらす使命があるのです。「私 たちは、ある意味で社会生活に適応 する静脈注射です | ™。しばらくし て、詳しく説明します。すなわちオ プス・デイの精神を生きる人は、世 の流れに同化しつつ、周りに築かれ ている大きな人々の集団に神のいの ちをもたらすよう努めるからです。

聖ホセマリアは1934年、当時僅か だったオプス・デイのメンバーに書 き送っています。「私は、私たちが 企て、携わっている事業は人間的な ものではなく、偉大で〈超自然的な 事業〉であると度々表明してきまし た」[2]。さらに後年、そのことを |神の業であって、ある人間の思い つきではない┃™、と要約していま す。主の同伴なしでは不可能な、世 界中のあらゆる環境でキリスト信者 を動員して繰り広げられている、こ の事業を証しするためには、オプ ス・デイと各人の歴史を振り返るだ けで十分でしょう。常に神の現存 が、はっきりしています。教会は、 さまざまな機会にオプス・デイが 「神のお考えによって」 西 存在して いることを、また「聖ホセマリア・ デ・バラゲルが受けた聖霊のたまも のに従って、オプス・デイ属人区 は、属人区長の指導のもと、社会の 中における聖性への呼び掛けを世界 に広めるという任務を果たしてい

る」_{I5} ことを、公式に述べています。

聖ホセマリアは、創立からほぼ40年

後にこう言っています。「1928年以 来私は主のお望みがはっきりと分か るようになりました。キリスト信者 は主のご生涯を模範として、主に倣 わねばならないということです。主 のご生涯の中でも特に、隠れたご生 活、人々の中にあって同じようにお 過ごしになった仕事のご生活をまね るべきだと理解したのです。(…)市 民としての生活を続けながら自らを 聖化し、隣人と情熱・夢・努力を分 かち合う神の子たちの大群衆を夢見 てきましたが、この夢は既に実現し ました」で、オプス・デイは、日常 生活、つまり仕事や休息、家族や友 人たちとの交わり、喜びや悲しみに おいて聖性を求める具体的な道を私

たちに与えるため、神がお望みに なったのです。聖ホセマリアは、日 常生活を内的に二分することはでき ないことを思い出させてくれます。 一方で、霊的な時間は神と共に過ご し、その他の時間は神とは無関係な 過ごし方をすることはできません。 聖性への普遍的な呼び掛けには、生 活の一致が前提となりますが、それ は、片時も忘れずに、各瞬間を神へ の愛のうちに生きることによって成 就されます。そうして初めて私たち は、している全てのことに使命のあ ることを見出す、使徒になるので す。

聖ホセマリアは、1967年10月8日ナバラ大学のキャンパスでの説教でこう話しました。「キリスト信者の召し出しとは、毎日の散文を英雄詩にすることだと幾度となく繰り返してきました。天と地は地平線で一つになるように見えます。しかし実はそうではない。天と地が本当に一つと

なるのは、日常生活を聖化しようと する皆さんの心の中なのです | 「7]。 一つひとつのことを神と共にするに は、神の内在を納得していることが 必要です。何か一夜にして成就でき るようなことではありません。です から、聖ホセマリアは、私たちに一 つの道を教えました。それは、カト リック教会の豊かな伝統から学び取 り、各人が自己の状況に合わせ、神 の子どもとしての落ち着きと信頼を もって生きることのできる信心を具 体化したものです。その目標は、全 存在を神に委ねることにより、オプ ス・デイ創立者が好んで呼んでいた ように〈列聖可能な聖者〉あるいは 〈祭壇上の聖者〉となり、社会の中

で観想生活を送り、周りを福音の光

で照らすことです。

聖ホセマリアは、1928年10月2日の あの照らしが神からの光であること に関して詳しく説明している文書の 結びに、オプス・デイに招かれる 人々は常に、三つのことをしっかり と心に留めることを強調していま す。すなわち、第一に「オプス・デ イは神のみ旨を果たすために生まれ た。それゆえ、神のお望みはその実 現であると確信すること | 図。第二 に「主なる神が、人々のため何かを 企てられる時には、先ず、道具とし て使う人物を考え…そして、相応し い恩恵をお与えになることしょ。第 三に「事業の神聖さに関する紹自然 的な信念は、あなたたちを夢中に し、オプス・デイへの熱烈な愛を育 む…そして、その実現のために犠牲 になることを最高の幸せだと思うよ うになる | mmということです。

オプス・デイを成すのは神です。で すから、聖ホセマリアに伝えられた 精神で生きることを望むならば、神

の助けが欠けることも、心に「甘美 と慰めに満ちた福音宣教の喜びし「エエエ が欠けることはないでしょう。オプ ス・デイは、名の通り神の業であっ て、私たち人間が成す事ではありま せん。この事は、私たちを落ち着か せてくれます。主が私たちの協力を 望まれるとはいえ、この家族で実際 に采配を振り、その時々に相応しい ことは何か、また誰に神的な火を灯 すかをご存知なのは、主であること が分かるからです。私たちがどのよ うな方法でその救霊の使命に参与す ることを神がお望みなのかを考える にあたり、聖ホセマリアはよく、邪 魔にしかならないような幼子に、網 を引き上げる綱を持たせてやったあ の逞しい漁師たちのことを、思い浮 かべていました「エップ。神の助けを知っ ている人のこの信念から、真の 「gaudium cum pace」喜びと平和

がもたらされるのです。それゆえ、 聖ホセマリアは、1928年10月2日を 思い出して、あの日「主が、自らオ プス・デイを創立した」[13]とはっき りしたためています。

属人区長は創立者の「大きな家族に なりたいと思うなら、私たちがより 良くなることです | 「」」という言葉を 思い出すように諭します。聖ホセマ リアは、一般信徒である子どもたち が、キリストへの愛から醸し出され る〈キリストのよき香〉だけで他者 と区別されるような生き方で、この 世をより良い家族にするため働くこ とを望んでいました。全ての使徒職 は、この神的で魅力あることから始 まり、人々を真実の幸せに向かわせ ます。いつもオプス・デイを傍近く で見守って下さったオプス・デイの 女王・聖マリア「Regina Operis Deil、神が世界のためにお望みに なった精神を生きた聖ホセマリアと 多くの聖徒たちと共に、私たちのた めに執り成してください。

- [1] 聖ホセマリア『オプス・デイの 超自然的精神に関する指針』42番。
- [2] 同1番。
- [3] 同6番。
- [4] 使徒憲章Ut sit, 序。
- [5] 自発教令Ad charisma tuendum、序。
- [6] 聖ホセマリア『知識の香』20番。
- [7] 聖ホセマリア『会見集』116番 (説教:愛すべき天地…天地・世界 を熱烈に愛する、精道教育促進協会 出版『教会を愛する』に収録されて いる)。
- [8] 聖ホセマリア『オプス・デイの 超自然的精神に関する指針』47番。
- [9] 同48番。

- [10] 同49番。
- [11] フランシスコ「福音の喜び」10 番。
- [12] 聖ホセマリア、『神の朋友』14 番参照。
- [13] 聖ホセマリア、『内的覚え書き』306番。アンドレス・バスケス・デ・プラダ『オプス・デイの創立者』(Andrés Vázquez de Prada, El fundador del Opus Dei, tomo I, p. 302)に引用されている。
- [14] フェルナンド・オカリス、2017 年2月14日司牧書簡、9番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-opus-dei-souritsu/(2025/12/16)